

令和8年度第1回行政改革推進委員会会議記録(要約)

日 時 令和8年8月3日(月)午後2時～午後3時50分

場 所 近江八幡市役所4階 委員会室2

出席委員 真山会長・松岡副会長・橋本委員・壬生委員・川崎委員・藤田委員・北川委員・山田委員

事務局

総合政策部	辻 部長
行政改革課	春田 課長
	竹山 参事
	犬井 参事
	永岡 参事
	後 課長補佐
	岩波 主査
	中西 主任主事
	森田 主事

1 総合政策部 辻部長挨拶

2 議題

(1) 第2次行政経営改革実施計画の進捗状況について

事務局

「第2次行政経営改革実施計画進捗状況」「第2次行政経営改革実施計画」に基づき説明

(説明概要)

持続可能な行政経営を目指す5か年計画の初年度進捗報告。

全体評価

3つの基本方針(効率的な行政経営、持続可能な財政運営、公有財産の効率的な管理)に基づき37項目を評価。

全体評価はA評価29件、B評価8件と概ね順調。

個別取り組みの状況

・働き方改革:

男性の育児休業取得率は81.8%に向上したが、時間外労働の削減が課題。業務改善と原因分析を並行して実施中。

・オンライン申請:

手続きのオンライン化率は44.3%、申請割合は64.8%。市民サービス向上のため、強力な推進が必要。

	・公共建築物の管理: 固定資産台帳の精緻化に着手。全庁で入力ルールを策定し、職員向け説明会で理解向上を図った。 ・業務改善: 妊娠・出産関連業務のオンライン化と RPA による自動化、処分通知等のデジタル化を実施。
委員	ロジックツリーとはどのような手法か。
事務局	ロジックツリーとは、政策・施策・事業の関係を階層的に整理し、それぞれの事業がどの政策・施策の実現につながっているのかを可視化する手法である。昨年度の取組では、事業の重複や関連性を整理できた一方、一つの事業が複数の政策に関係する場合など、整理・評価の難しさも明らかとなった。また、事業内容を熟知する視点と政策全体を俯瞰する視点の双方が必要であり、ロジックツリーを活用する上では、全体像を踏まえて検討できる体制の重要性が認識した。
委員	今のお話を伺い、ロジックツリーを活用して議論する際には、一部の業務だけを知っている人ではなく、全体を俯瞰して見られる人や幅広い業務を理解している人が集まって検討することが重要だと感じた。
委員	働き方改革の点で学校の教職員はみなし残業代があるが、市はどのようなになっているのか。
事務局	職員の勤務管理については、勤怠管理システムを導入しており、出勤時及び退勤時に打刻している。 時間外手当については、管理職には管理職手当を支給しており、時間外手当は、みなしを含め支給対象外である。 一般職については、勤怠管理システムで把握した実勤務時間に基づき、時間外手当を支給している。
委員	市職員の業務についてはイメージできるが、学校現場の働き方改革がどこまで進んでいるのかは、外から見えにくいと感じる。 部活動改革による負担軽減は進んでいると思うが、それ以外の業務の実態や課題についても知りたい。 教員が健康に働ける環境づくりは重要であり、タブレット端末などのデジタル化が業務改善にどのようにつながっているのかも含め、具体的な説明があると理解が深まると考える。

(2) 令和 7 年度進捗状況を反映した個別施設計画の更新について

事務局	「個別施設計画変更一覧表」、「近江八幡市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の進捗状況」に基づき説明
-----	---

	(説明概要) 個別施設計画の進捗(令和 7 年度) ・文化会館など 5 施設の方向性を変更。市営住宅の一部譲渡・解体により、累計削減率は 4.34%(1 万 5321.15 ㎡)に達した。 ・進捗を反映した計画は令和 8 年 8 月 4 日から市 HP で公開予定。
会長	資料 2 の表中の「長寿命化」と「維持」について、具体的な対応内容の違いを確認したい。
事務局	長寿命化は、改修工事等を行い施設を長期的に使用できる状態にすることを指す。一方、維持は通常の維持管理を継続して行うことである。
会長	文化会館については改修が完了し、長寿命化の計画を満したため、今後は維持管理を行う方針に変わったということか。
事務局	そのとおりである。
委員	防災センターの場所と、今後検討するとされている備蓄倉庫のあり方について確認したい。
事務局	防災センターは、船木町にある消防署内の施設であり、建物の大部分は東近江行政組合の所有であるが、3 階部分の危機管理課の執務室等は市の所有であるため、個別施設計画に掲載している。現在は、執務室及び備蓄倉庫としての機能を有しており、非常用食料や衛生用品等を保管している。
委員	災害時に必要な物資を取りに行くことを考えると、3 階に備蓄倉庫があることが適切なのか疑問である。また、防災関係者であっても、備蓄倉庫や非常用発電機の場所を把握していない状況があった。災害時に迅速に対応できるよう、保管場所や管理方法について改めて検討してほしい。特に、地震や水害などのリスクを踏まえ、必要な場所に備蓄することが重要である。 今回の災害を契機として、市の危機管理体制や備蓄品の内容についても総点検を行い、暑さなど新たな環境への対応も含め、必要な備蓄のあり方を検討してほしい。
事務局	いただいた意見については危機管理課にも共有し、災害時の物資の搬出方法や保管場所のあり方を含め、検討するよう伝える。

(3) 第2期公共施設等総合管理計画(案)および個別施設計画(案)について

事務局	「R8 公共施設マネジメント資料」に基づき説明 (説明概要) 第 2 期公共施設等総合管理計画案 基本方針:
-----	---

第 1 期の面積削減目標から転換し、将来にわたり必要な行政サービスを持続的に提供する「サービス起点」の仕組み構築を目指す。

推進ステップ:

①行政サービスの分析、②データと体制の整備、③全体最適の視点での施設活用(集約化、官民連携等)の 3 段階で進める。

推進体制:

所管課、ワーキンググループ、部長級委員会での検討を経て、市長が政策決定する体制を構築する。

公共施設に関するその他の議論

委員

・小中学校のプールについて

野洲市では学校での水泳の授業は廃止し、市の屋内プールで水泳の授業をしている。近江八幡市ではどのようなになっていくのか。

事務局

本計画と同時期に作成されている学校施設の長寿命化計画において盛り込まれていくことが想定される。意見があったことは、所管課に伝える。

会長

災害時の水源としての役割も考慮した総合的な検討が必要である。

委員

・公園について

高齢化地域では小規模公園が「空き地化」しており、防災機能も含めた再編が必要である。

委員

・公共施設等総合管理計画について

公共施設等総合管理計画は対象範囲が広く、市民に分かりやすく説明することが難しい計画であると感じる。本日、防災倉庫について、建物が被災した場合に機能しなくなるのではないかと意見もあり、施設のあり方を総合的に考える難しさを改めて感じた。

本日の説明では、インフラ施設については各所管課の個別計画との調整を図り、公共建築物については行政効率の観点から見直していくという理解でよい。

事務局

第 1 期計画では、施設の老朽化や財政負担などに対する危機感を共有することが主な役割であった。第 2 期計画では、その危機感を具体的な行動につなげるため、施設情報やコスト、サービス需要等を踏まえて個々の施設のあり方を検討し、市全体として優先順位を判断していく仕組みを構築したいと考えている。

行政効率化そのものを直ちに目指すというよりも、第 2 期の 10 年間で、こうした検討や意思決定を継続できる体制と仕組みを整え、第 3 期につなげていきたいと考えている。

委員

概ね理解した。これまでは、施設の老朽化等への対応について、財政面を中心に判断されてきたと思う。

今後は、施設を整備するかどうかについて、財政面だけでなく政策的な観点も含めて、より丁寧に検討する組織的な仕組みに移行し、その意思決定の過程が見える化していくということだと理解した。

委員	「サービス起点」で考える場合、優先順位をつけて判断していくこととなるが、その際に終了するサービス等が出てくるように思うが、その部分はどう考えているか。
事務局	サービスを終了するというよりかは、代替、見直しを行い、本来届けるべきサービスを届けるために、施設ありきの考え方から脱却し、補助金や民間活用も含めた最適なサービス提供方法を再選択していく。
委員	学校施設については、大規模改修と新築のどちらが適切か、工期や物価高騰、少子化による将来需要なども踏まえて判断することが重要である。 また、学校やコミュニティセンター、プール、公営住宅、公園などについても、それぞれ個別に考えるのではなく、防災機能や将来の人口構成、利用状況等を踏まえ、各課を横断し、地域全体で施設のあり方を検討してほしい。
委員	3 点ある。1 点目は、第 1 次公共施設等総合管理計画の策定に携わった立場として、第 1 期計画をしっかりと総括してほしいということである。この 10 年間で他団体の新たな取組や事例も出てきており、当初はうまくいっているように見えても、後から維持管理コストなどの課題が生じている事例もあると思う。良い事例だけでなく、うまくいかなかった事例も収集し、第 2 期計画の策定につなげてほしい。 2 点目は、民間施設や民間が提供するサービスとのすみ分けも含め、幅広い視点で検討する必要があるということである。市の施設やサービスだけを見るのではなく、可能な範囲で民間の状況も把握しながら検討してほしい。 3 点目は、サービス起点という考え方は非常に重要である。一方で、本日の説明では庁内で検討・決定していくようにも受け取れた。市民の声をどのように把握し、どのタイミングで計画や検討に反映していくのか、現時点での考えを伺いたい。
事務局	第 2 期計画では、まずサービス起点で施設を検討するための仕組みや体制づくりに重点を置いている。今後、優先度の高い施設から検討を進め、施設運営者が把握しているアンケートや利用者の声などを整理し、必要に応じて追加の意見把握も行いたいと考えている。 また、施設の方向性を決めてから市民に説明するのではなく、検討の過程で市民や利用者、議会等と将来の方向性を共有し、一緒に考えていくことが重要であると認識している。具体的な手法は今後検討するが、こうした意見交換や市民参画の仕組みについてもロードマップに位置付け、今後示していきたいと考えている。
委員	以前、0 次予防センターの立ち上げに関わり、レストランのメニュー開発や厨房設計、運営者への衛生面や調理方法の指導などを行った。また、利用者をどのように施設へ呼び込むのか、移動手段や情報発信、運営方法についても様々な提案を行った。しかし、施設整備後、当初想定していた取組が十分に継続されず、施設も十分に活用されなかったと認識している。

多額の費用や補助金を使って施設を整備するだけではなく、その後どのように運営し、利用してもらうかまで考えることが重要である。そのためには、運営する人の意欲や人材が非常に重要であると考えている。

施設が多少古くても、利用者に喜んでもらおうという意欲を持った人がいれば、より有効に活用できると思う。今後の施設マネジメントにおいては、施設そのものだけでなく、「人」という視点も大切にしてほしい。

委員

給食センターでは今年度、品数が減る、ご飯が不足するなどのトラブルが多いと感じている。原因が人にあるのか設備にあるのかは分からないが、サービスや運営・管理も含め、この計画の中で重要な視点として検討してほしい。

委員

給食でご飯が不足したり、一品少なくなったりすることについては、管理者の責任が大きいと考える。仕入れができない場合には別の調達方法を用意するなど、あらかじめ代替手段を想定しておく必要がある。

子どもたちに影響が生じている以上、責任を取るということではないが、管理者には責任感を持って対応してほしい。

また、食に関しては、食中毒などの問題もあるため、衛生管理を含めた徹底した管理が必要であり、その点においても責任者の役割は非常に重要であると考えている。

委員

本日の議論を通じて、サービス起点で施設を整理するという考え方については、一定の理解が得られたように感じた。一方で、現在のサービスだけでなく、将来どのような新たなサービスが必要になるのか、また、サービスは施設だけでなく、それを提供する「人」も重要であるとの意見があった。

まずは固定資産台帳などを活用し、コスト面からサービスを捉えていくことは一つの方法であると思うが、サービスには様々な要素がある。本日出された意見も踏まえながら、今後検討してほしい。

会長

第 1 期計画では、施設面積の削減という分かりやすい目標があったが、第 2 期計画の「サービス起点」は様々な考え方があり、簡単に答えが出るものではないと思う。将来の公共施設を考える上では、施設の量ではなく、市民・行政サービスがどれだけ充実し、効率的に提供されるかという視点が重要である。

現在の施設ありきではなく、本来必要なサービスを誰がどのように提供するのか、その責任者は誰なのかを考えた上で、施設のあり方を検討することが重要である。本日の意見も踏まえ、今後の検討を進めてほしい。

3 閉会